



第 156 回 岡放技セミナー開催案内

日 時 : 2025 年 1 月 26 日 (日) 9 : 00 - 12 : 20

開催方法 : webinar

参加費 : 会員・学生は無料 非会員 2,000 円

お申込み : 岡山県診療放射線技師会ホームページ事前参加申請
フォームよりお申し込み下さい <http://www.oart.jp/>

後 援 : 岡山県(疾第 689 号)

*岡放技セミナー研修会には「日本診療放射線技師会学術研修カウント」が付与されます

*本セミナーの受講により岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会肺がん部会の定める精密検診機
関基準は満たされます

*オンラインにつきましては何かしらの通信障害が発生する可能性がありますことをご了承くださ
い

— プログラム —

9 : 00 ~ 9 : 05 【開会挨拶】

9 : 05 ~ 10 : 05 【教育講演】

令和 6 年度岡山県生活習慣病検診等管理者指導協議会 第 3 回肺がん部会研修会

『 肺癌に対する放射線治療 』

岡山大学病院 放射線科 助教 渡邊謙太 先生

10 : 10 ~ 11 : 10 【教育講演】

『 放射線治療技術の最新動向と課題を考える～笑顔のある未来を創れる??～ 』

岡山大学 学術研究院保健学域 放射線技術科学分野 准教授 田辺悦章 先生

11 : 15 ~ 12 : 15 【教育講演】

胃がん大腸がん研究会

『 胃 X 線検査における圧迫法序説 』

慶應義塾大学病院 予防医療センター 吉田諭史 先生

12 : 15 ~ 12 : 20 【閉会挨拶】

“肺がん放射線治療技術最前線”

/*** 講師の渡邊謙太先生よりメッセージ ***/



肺癌に対する放射線治療は従来から行われていますが、併用される化学療法の発達や放射線治療技術の進歩により、近年その治療成績は向上しています。

手術不能な早期肺癌に対する体幹部定位放射線治療をはじめ、画像誘導放射線治療・呼吸同期照射、強度変調放射線治療などの技術を用いた高精度治療が行われるようになっており、腫瘍に高線量を投与しつつ、リスク臓器の線量を可能な限り下げようとする試みがなされています。

局所進行肺癌に対しては、免疫チェックポイント阻害薬と放射線治療との組み合わせによって従来よりも良好な予後が期待できるようになりましたが、放射線肺臓炎によって予定治療を中断せざるを得ない場合がある為、放射線治療計画を行う際には従来以上に肺への線量に注意を払う必要があります。

また、少数の遠隔転移を有する肺癌に関しては、化学療法で病勢が安定している場合、すべての病変に局所治療を行うオリゴ転移の考え方も普及してきています。

【経歴】

2017年 岡山大学病院 放射線科
2021年 川崎医科大学附属病院 放射線科
2024年4月～現在:岡山大学病院 放射線部 助教

“放射線治療の課題と理想、そして挑戦”

/*** 講師の田辺悦章先生よりメッセージ ***/



こんにちは、岡山大学の田辺悦章です。

これまで私は医療から獣医療までの放射線治療装置の立ち上げ支援や学会誌の教育講座の企画、地域放射線治療との共創などを主体に頑張ってきました。これらの取り組みで多くの方々と話し合い、その時々の放射線治療技術の課題について考え、将来へつなげられること、今解決できることは何かについて悩んできました。

今回はこれらの経験や学んできたことを基に、最新の放射線治療に関するガイドラインの傾向、適応放射線治療などの最新治療の動向や課題、放射線治療技術

の課題と理想、臨床解決のための研究や挑戦についてお話をさせていただきます。

【経歴】

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻卒業
国立病院機構福山、呉、関門医療センター照射主任
山口大学医学部附属病院 副診療放射線技師長
岡山大学学術研究院 保健学域 放射線技術科学分野 准教授

【主な保有資格】

第1種放射線取扱主任者、放射線治療専門技師、医学物理士

“圧迫撮影の可能性とは??”

/*** 講師の吉田諭史先生よりメッセージ ***/



本講演では、胃X線撮影法における立位および腹臥位圧迫法の方法ならびにその目的と意義に焦点を当て、現在の撮影法の主力である二重造影法とのちがいを考察してみたいと思います。

具体的には、「異常所見の拾い上げ能」、「肉眼形態の現し方・現れ方」、「組織構築の推測」、「良性疾患と悪性疾患との鑑別」に関する知見を紹介し、撮影技術と読影技術そして診断理論の新たな展開への糸口にしたいと考えています。

さらに、圧迫法の成功率や手技としての一般化の観点から、これを胃がん検診の標準撮影法として組み込むことの妥当性についても私見を述べつつ本法の可能性を探ってみたくも思っています。

また、過去の研究や新しい圧迫法について触れたり、二次元像である二重造影像や圧迫像を立体的に理解するためのツールをお伝えするつもりです。胃癌を早期発見するための学びの大切さ、そして本業界の健全で持続的な発展のための具体的な方策を議論していただくためのきっかけになれば幸いです。

【経歴】

平成6年3月 佐賀医科大学医学部卒業
平成6年4月 佐賀医科大学内科入局
平成7年6月 済生会唐津病院内科 医員
平成9年6月 佐賀医科大学消化器内科入局
平成10年6月 佐賀県立病院好生館内科 医員
平成11年6月 癌研究会付属病院内科医員
平成12年6月 唐津赤十字病院内科医員
平成14年5月 早期胃癌検診協会 主任研究員
平成24年7月 慶応義塾大学病院予防医療センター 講師
令和6年 現在に至る